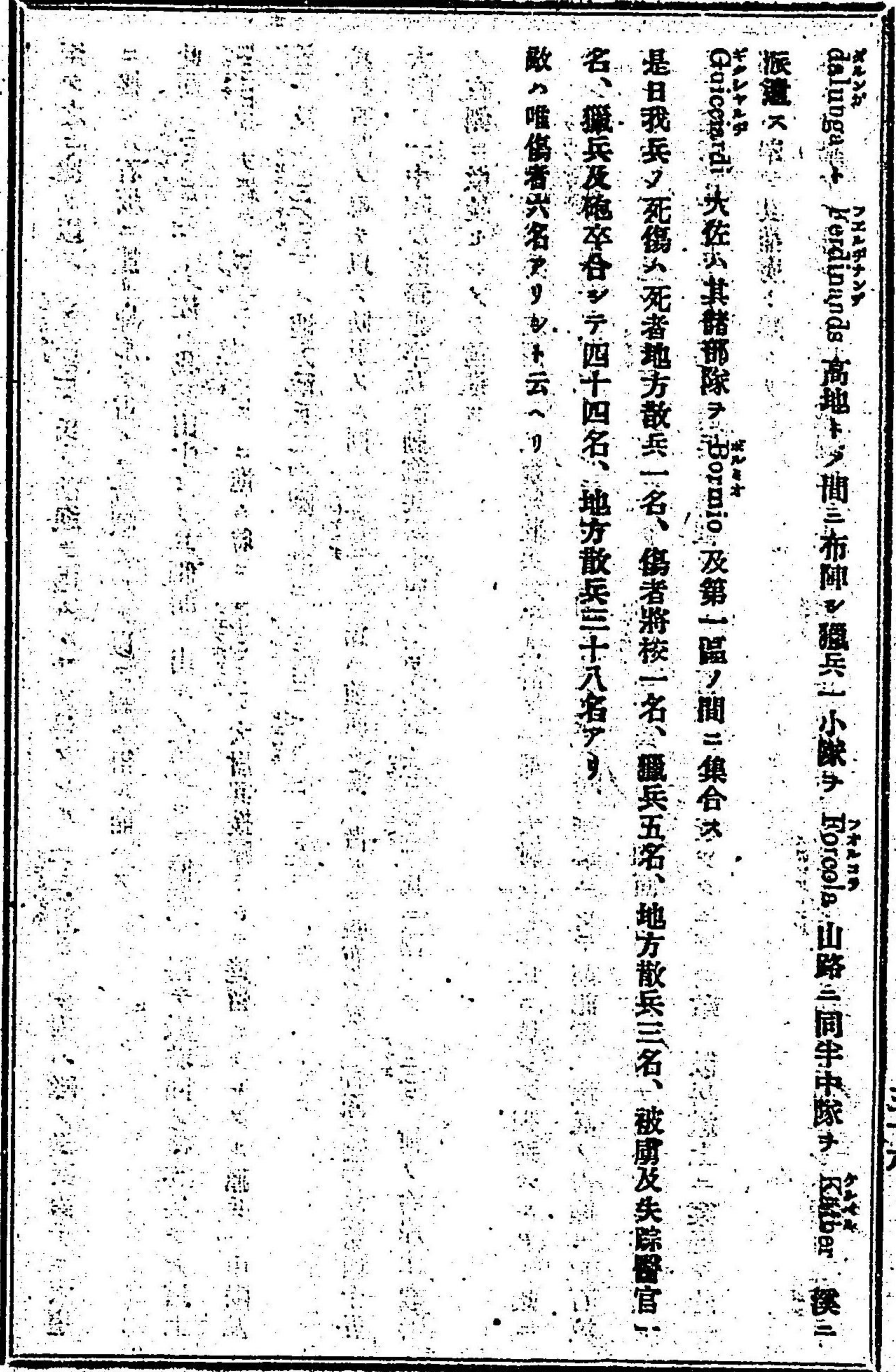


dalinga 高地トノ間ニ布陣シ、驍兵一小隊ヲ
 Guiccardi 大佐ハ其諸部隊ヲ Porzio 及第一區ノ間ニ集合ス
 是日我兵ノ死傷ハ死者地方散兵一名、傷者將校一名、驍兵五名、地方散兵三名、被虜及失踪醫官一
 名、驍兵及砲卒合シテ四十四名、地方散兵三十八名アリ
 敵ハ唯傷者六名アリト云ヘリ



第三篇 帝國駐兵ノ進攻 O Stodalunga 附近及 Judicarien 内ノ戦(七月十六日) Nota 山峠
 及 Pieve di Ledro 附近ノ戦(七月十八日) Ampola 峯ノ防禦

加ノ
 七月九日 Albrecht 親王ヨリ軍隊司令部ニ第七第八兩軍團 Pieve 河後ニ退却ノ事及第五軍團
 是ヲ以テ Kohn 少將南軍司令部ニ請求スルニ Sugana 溪ノ掩護トシテ少ナクモ歩兵一大隊ヲ借與
 得テ Sugana 溪ノ防禦ニシテ Primolano 内 Capo di Ponte 附近及ト Cleson 附近ノ橋梁ヲ毀破シテ
 南境ノ敵ハ其衆大ナルヲ疑フヘカヲサルヲ以テ十日 Kohn 少將重テ兵數ノ増加ヲ請求シタレド允
 許ヲ得ス

今や境内所在ノ兵形勢ノ變ニ隨テ亦其分配ヲ變セサルヲ得ス

Sugauna 溪内ノ事ハ少將 V. Baum 氏其指揮ニ任ズルヲ加メ、Wimpfen 聯隊ノ二中队
 en-Tiroi 擧兵一中队 Donubin 及 Landeck 地方散兵二中队
 di Tesino 二連ヲ Landeck 地方ニ少佐 V. Pichler 氏ノ率メテ所ノ Bainer 聯隊ノ第一大隊砲兵第九聯
 隊ノ火筒砲兵中队及築造兵一少隊(此築造兵中队ノ Primolano 附近ノ陣地ヲ守備メ加ヘンガ爲メナ
 ン)トシ、Piole 地方ニ其隊本部隊ヲ以テ軍團司令部ニ Arsia 溪 後 Fogaria 溪 後 Ferragolio 溪 併ニ Nago-R
 Overedo 道以南地區ノ掩護メ、V. Gredler 大尉之ニ任シ、Tiroi 擧兵第六大隊ノ四中队ノ外向キ之ニ
 附ケルニ Telfs, Zell-Fügen, Hall, Blindenz, Schlanders 地方散兵中队及 Innsbruck-Sonnenberg
 精騎兵一少隊ヲ以テ、Schlanders 地方散兵中队ノ十三日 Pieve di Vall Arsa 二連、Bludenz 地方散兵中
 隊ノ Beseno 溪(Calmano 溪)ニ附テ Innsbruck-Sonnenberg 精騎兵中队ノ piano delle Fugazza 二
 預備旅團ノ中 Bainer 聯隊ノ第二大隊ノ火筒山砲第一中队ト共ニ二十一日 Trent ニ至リ其第四大隊
 ノ山砲第二中队ト共ニ Alle Sarche 二留メ、七月五日砲兵第五聯隊四斤山砲第一中队ノ補充トシテ砲兵第六聯隊
 少佐 V. Albertini 氏ニ命メ、其兵分、Oles 及 Ponte di Moiazzaol (其橋頭僅此頃竣工ス)ト占
 Schlanders 地方散兵中队ニ若クハ、Pelo 二留メ、舊ト此地ニ留メ、第十一聯隊ノ二中队ノ Trent
 領メ、Lana 地方散兵中队ヲ差遣シ、其兵分、

ニ至テ其大隊ニ合ス

又 V. Meitz 少佐ニ命メ、其地方散兵二中队ヲ(其機分ノ乗車メ)Bozzen 二差遣メ、Bludenz 及
 Landeck 地方散兵中队ニ若クハ、Sommander 在、十三日 Pieve di Vall, Arsa 二連、Landeck 中隊ノ十四
 日 Pieve di Ferg 二留メ、
 其後散兵 Judicarien 及 Ampola 溪ニ向テ來進ス、シテノ報知アリ其願マン、恐信ス、ホキヲ以テ又少
 ノン此部署ヲ變更シ、大尉 V. Gredler 氏ト共ニ Tiroi 擧兵第六大隊ノ四中队ヲ以テ Grubone 旅團ニ
 屬セシメ、Pichler 少佐ノ機隊中、四中队ヲ以テ Borgo 二留ラシメ、Grubone 氏中隊ノ中
 隊ニ中隊ノ Kinzochel-Hopfgarten 地方散兵一連、共ニ Giovo 山及 Hango 山ニ留シ、
 後隊ニ中隊ノ Nago Torbole 二連、Riva 二回中隊ノ Piole 山ニ留シ、
 少佐 Grubone 伯、其前兵ヲ散兵 Lorina 溪内及 Rocca Pagane(Ampola 溪ノ上方)ノ山腹ヲ經テ
 Storo 二回ヲ進メ、報ヲ得、其半旅團ノ兵ノ現在使用スルヲ得、ホキ者擧兵三中队第十聯隊ノ二中
 隊 Baitenberg 地方散兵中队及砲兵中队ヲ、十三日午後三時其營ヲ移シ、Grubone 少佐之ヲ引
 テ Tiaro 本領ニ Ampola 宗ヲ迂迴シ、Rocca Pagana ノ東南脚ヲ經テ、Storo 二通メ、一條ノ野徑ヲ
 進行ス、Rocca Pagana ノ高地ニ至リ、其西ヲ經テ、Ofocce 山上ニ散兵凡ノ四中队アリ、Grub-

ロロ氏親朝之ヲ進撃セシメテ欲ス然レ其地形極ク不利ナリ以テ一小支隊ヲ此ニ遣ミテ此夜ハ一旦
 此間軍隊司令部ノ得ル所ノ報知ニ據ルニ敵兵隊ニ Chiese 河溪ニ進入セキ疑ヌカラス是ニ於テ
 Kuhn 少將ノ Meiz, Albertini 兩旅團ヲ引キテ亦攻勢ヲ取ラシメ Hoffert 氏ノ半旅團ニ Montiusant
 旅團ノ兵若干ヲ副ヘテ Lardaro ノ陣地ヲ防守セシメ而シテ Riva 及 Ledro 溪ヲ貫過シ
 Giovo 山ヲ險ヒテ攻勢的進行シテ Judicarien ニ進入スル敵ノ側面ニ出テメント欲ス
 然レモ Hoffert 中佐ヨリ敵既ニ Judicarien に入リ Condino ヲ占領セシメ頗ル衆大ノ兵ヲ以テ將サニ
 Lardaro ヲ進撃セシメストノ報アリ又 Grubne 少佐ヨリ敵既ニ Ampola 溪ニ入リ Pooca Pagan ノ
 高地ノ腹ヲ襲ストノ報アリ
 是ニ於テ Kuhn 少將又其計ヲ改メ其 Ledro 溪ヲ貫過シ Giovo 山ヲ險ヒ進トシテ Lardaro ヲ
 經進シテ Judicarien 内ニ攻勢ヲ取ラント欲シ十四日其必須ノ準備ヲ爲シ十六日ヲ期シテ進攻スハ
 キノ部署ヲ發メ左ノ如シ
 Hoffert 氏半旅團ニ第十一聯隊ノ三中隊火筒山砲第二中隊ヲ加テ溪ノ西岸上 Frezzo 及 Castelio
 ヲ據ル Brunne ヲ進シテ Montiusant 氏ヲミテ第十一聯隊ノ一中隊 Hossen 聯隊ノ第四大隊及

第五條 又普兵及其同盟ノ兵ハ巴教及瓦教堡兩國ノ境ヨリ Neckar 河ニ沿フテ其 Kooser 河ト相合ス
 ノ處ニ至リ此ヨリ Kooser 河ヲ溯リ Hall 至リ Hall 以テ Kreilshelm 及 Feuchtwangen 至
 レノ大道ヲ以テ畫スル線外ニ踰越スルヲ得ズ
 第六條 普兵及其同盟ノ兵ハ其占領スル處ノ瓦教堡ノ地ニ於テ官私ノ財產ヲ剽掠スルコトナカルヘク
 又絶テ軍資ヲ課スルコトナカルヘク但此地方ノ民ハ一定ノ彈規ニ隨ヒ普兵ヲ無代價給養スルヲ要スル
 ノミ
 第七條 瓦教堡政府ハ須ラシキ Mainz 屯在ノ兵ヲシテ晩クモ八月八日ヲ期シテ要塞ヲ去リ瀟車ヲ
 以テ Rhein 河ノ左岸上 Ludwigshafen 至リ此ヨリ尙ホ鐵道ニ由リ Mannheim 及 Bruchsal ヲ經
 シ Stuttgart 至リシメシメテ其ノ義務ヲ負フヘシ
 第八條 瓦教堡政府ハ又須ラシキ北獨逸諸邦 (Saarbrunnen, Weimar, Sachsen-Meiningen, Lippe-Detmold
 及 Posen) ノ兵ノ Hilfe ニ在ル者ヲ許シテ武器ヲ携テ戰備ヲ整ヘテ其國ニ歸ルヲ得セシメ又此等ノ兵
 其境域内ヲ通過スル間ハ價ヲ求メズシテ其須要ノ給養ヲ供フルノ義務ヲ負フヘシ此諸邦ノ兵ニシテ
 Mainz 或ハ Basalt 要塞ニ在ル者其國ニ歸ルヲモ亦瓦教堡政府之ヲ妨害スルヲ得ズ
 第九條 Hohenzollern ノ地ハ至急瓦教堡ノ文官及軍隊ヨリ普國文官ニ交附スヘシ晚クモ八月八日ヲ

過シヘカラス其官私ノ財産ニシテ瓦教堡文官及軍隊ノ毀傷セル者ハ悉皆之ヲ辨償スルヲ要ス

第十條 瓦教堡政府ハ普國又ハ其與邦ノ臣民ニシテ普國軍要塞ヲ去ルノ後放逐セラレ其財産ヲ失フ者ヲ爲メニ相當ノ補償ヲ爲スノ義務ヲ擔ジヘシム

第十一條 瓦教堡政府ハ第五條ニ記セル處ノ普國并ニ其與邦ノ軍隊ノ外何國ノ兵ト雖モ之ヲ許シテ其境内ヲ通過シ又ハ境内ニ屯營セシムヘカラス其從前契約ヲ故クシテ巴華略兵ヲシテ其境内ニ兵站道ヲ使用セシムルニ事ハ其事アル毎ニニテハMain軍總督ノ承諾ヲ請フヘシ

第十二條 瓦教堡全權ハ普國全權ニ對シテ其常ニ同一軍團ニ在ラ相提携セザルニテ兵ヲ爲シニ亦休戰條約ヲ締結セシムテ以テス然レモ普國全權ハ之ヲ拒メシモ其全權權限外ニ屬スルヲ以テナリ

Main 軍總督侍中將官 樞密院議長男爵 V. Neunhuth (鈐印)

男爵 V. Mantoufel (鈐印)

Main 軍參謀長大佐

Kraatz-Koschlan (鈐印)

西一千八百六十六年八月三日

普國 Main 軍總督侍中將官 V. Mantoufel ハ其書中ニテ巴教政府ト休戰條約ヲ商議シ且結了ス

陸軍大臣中將 H. von Bardeleben (鈐印)

男爵 V. Varnbüler (鈐印)

Main 軍參謀長 V. Kraatz-Koschlan (鈐印)

公使館評議員 H. von Bardeleben 及巴教少佐 Schulerberg 隨席ニテ兩全權委員議決スル所左ノ如シ

第一條 一方ニハ普國軍隊及其同盟諸軍隊ト一方ニハ巴教軍隊トノ間千八百六十六年八月二十二日

第二條 巴教軍隊ハ其 Carlsruhe ニ歸ルノ行軍ニ於テ兩者相協議シテ定ムル所ノ路線ニ由ルヘク又

第三條 普國軍隊及其與邦ノ軍隊ハ Neckar 河右岸巴教ノ地及其 Heidelberg 及 Mannheim ノ邑ヲ

第四條 普國軍隊及其與邦ノ軍隊ハ其占領スル所ノ巴教ノ地ニ於テ公私ノ財産ヲ剽掠スヘカラス又

第五條 巴教政府ハ晚クモ八月八日ヲ期シテ其 Mainz 屯在ノ兵ヲ撤去シ特ニ其國師團休戰中ノ屯

所ト定メラレタル地ニ歸合セシムルノ義務ヲ負フヘシ

所ト定メラレタル地ニ歸合セシムルノ義務ヲ負フヘシ

所ト定メラレタル地ニ歸合セシムルノ義務ヲ負フヘシ

所ト定メラレタル地ニ歸合セシムルノ義務ヲ負フヘシ

所ト定メラレタル地ニ歸合セシムルノ義務ヲ負フヘシ

所ト定メラレタル地ニ歸合セシムルノ義務ヲ負フヘシ

所ト定メラレタル地ニ歸合セシムルノ義務ヲ負フヘシ

所ト定メラレタル地ニ歸合セシムルノ義務ヲ負フヘシ

所ト定メラレタル地ニ歸合セシムルノ義務ヲ負フヘシ

所ト定メラレタル地ニ歸合セシムルノ義務ヲ負フヘシ

所ト定メラレタル地ニ歸合セシムルノ義務ヲ負フヘシ

所ト定メラレタル地ニ歸合セシムルノ義務ヲ負フヘシ

所ト定メラレタル地ニ歸合セシムルノ義務ヲ負フヘシ

所ト定メラレタル地ニ歸合セシムルノ義務ヲ負フヘシ

所ト定メラレタル地ニ歸合セシムルノ義務ヲ負フヘシ

所ト定メラレタル地ニ歸合セシムルノ義務ヲ負フヘシ

所ト定メラレタル地ニ歸合セシムルノ義務ヲ負フヘシ

所ト定メラレタル地ニ歸合セシムルノ義務ヲ負フヘシ

所ト定メラレタル地ニ歸合セシムルノ義務ヲ負フヘシ

所ト定メラレタル地ニ歸合セシムルノ義務ヲ負フヘシ

所ト定メラレタル地ニ歸合セシムルノ義務ヲ負フヘシ

所ト定メラレタル地ニ歸合セシムルノ義務ヲ負フヘシ

所ト定メラレタル地ニ歸合セシムルノ義務ヲ負フヘシ

所ト定メラレタル地ニ歸合セシムルノ義務ヲ負フヘシ

第六條 巴敦政府ハ又北獨逸諸邦 Sachsen-Weimar, Sachsen-Meiningen, Lippe-Bückeburg 及 (Reuss) 兵ノ Rastatt ニ在ル者ヲ許シテ武器ヲ携ヘ戰備ヲ整ヘテ其國ニ歸ルヲ得メ又此等ノ兵其境域ノ内ヲ通過スル間ハ價ヲ求メズシテ其須要ノ給養ヲ供スルノ義務ヲ負フヘシ此諸邦ノ兵ニマツル日或ハ Mainz ニ在ル者其本國ニ歸ルヲモ亦之ヲ妨害スルヲ得ス

第七條 巴敦政府ハ又普國及其與邦ノ臣民ニミテ普兵 Mainz 要塞ヲ去ルノ後放逐セラレ其財產ヲ失フ者ノ爲メニ其事巴敦兵衛ヲ Mainz ニ在ル間ニ起リシ者ハ相當ノ補償ヲ爲スノ義務ヲ負フヘシ普國臣民ニミテ Rastatt 要塞ヨリ放逐セラレタル者モ亦之ニ倣フ

第八條 巴敦政府ハ其國內巴敦兵ノ占領セル地ニ於テ他國ノ兵ノ通過ヲ又ハ屯營スルヲ許スヘカラス

此事中立地ニ於ケルモ亦然リ但 Rastatt 及 Mainz 要塞内ノ地地利及互致保兵ハ此例外ニシテ此兩兵ハ普國巴敦共ニ之ヲ許シテ自在ニ歸國セントス

男爵 V. Mantuffel (鈐印) V. Freydorf (鈐印)
V. Krautz-Koschian (鈐印) Hardeck (鈐印)
Schuberg (鈐印)

丁 千八百六十六年八月一日 Würzburg 附近ノ Eintragen 於テ結了

普國 Main 軍總督中將男爵 V. Mantuffel 其君上ニテ Hessen 政府ト休戰條約ヲ商議シ且特權ノハキノ任ヲ受ルヲ以テ Hessen 大公ハ侍中少佐 V. Lyncker 氏ヲ以テ全權委員ト爲シテ中將男爵 V. Mantuffel 氏ノ本營ニ差遣シ本日普國參謀大佐兼 Main 軍參謀長 V. Krautz-Koschian 隨席マテ兩全權委員議決スル所左ノ如シ

第一條 一方ニハ普國軍隊及其同盟諸軍隊ト一方ニハ Hessen 軍隊トノ間千八百六十六年八月二日ヨリ二十二日(首尾兩日トモニ包含ス)ニ至ルマテ三週間ノ休戰ヲ約シ此休戰ノ間左ノ條項ヲ遵守ス

第二條 Hessen 軍隊巴華略内ニ合營スルニ當ラン Main 河右岸ニ隣トマテ得ヌ Ochsenfurt 乃至 Aub 道ヲ除テ西進スルヲ得ヌ又瓦致堡ノ地ニ入ルヲ得ヌ

第三條 Hessen 軍隊其國ニ歸ルニ當ラン須ソシ Offenheim, Burgbernhem 地方ヨリ發シテ Mergen them, Walldurn, Amorbach, Erbach 及 Hirschheim 各經テ Worms ニ至ラン道ヲ取ラン且其歸國ノ際ハ少ナクモ出發前五六日ヲ以テ行軍路線ヲ Main 軍總督府ニ申報シ決メテ其線路ニ爽ハサルノ義務ヲ負フヘシ休戰ノ期盡ルマテハ其國境内 Rhein 河左岸ノ地ニ在ランシ但 Mainz 要塞周圍一哩

ノ地ハ此例外トス

第四條 休戦ノ間普國及其同盟軍隊ハ Hessen 國境ノ内 Hessen 軍隊ノ爲メニ定ムル所ノ地域ニ侵入スヘカラス

第五條 普國及其同盟諸軍隊ハ其 Hessen 境域ノ内ニ在リ間官私ノ財産ヲ剽掠スヘカラス又軍實ヲ徵課スルコトアルヘカラス唯其地方ノ民ハ一定ノ準規ニ隨ヒ其軍隊ヲ無代價給發スルヲ要スルノミ

第六條 Hessen 政府ハ晚クモ八月八日ヲ期シテ其 Mainz 屯在ノ兵ヲ撤去シ特ニ其國師團ノ爲メニ第三條中定ムル所ノ地域内ニ歸ラントルノ義務ヲ負フヘシ

第七條 Hessen 政府ハ又北獨逸諸邦 (Saachsen-Weimar, Sachsen-Meiningen, Lippe-Bückeburg & Reuss) ノ兵ノ Mainz 要塞内ニ在ル者ヲ許シテ武器ヲ携ヘ取備ヲ整ヘテ本國ニ歸ルヲ得メ又此等ノ兵其境域ノ中ヲ通過スル間ハ價ヲ求メメシテ其須要ノ給養ヲ供フルノ義務ヲ負フヘシ此諸邦ノ兵ニシテ Hasselt 及 Orlow 在ル者其本國ニ歸ルヲモ Hessen 政府妨害メテ得ス

第八條 Hessen 政府ハ普國及其同盟諸邦ノ臣民ニシテ普兵 Mainz 要塞ヲ去ルノ後放逐セラルル其財産ヲ失フ者ノ爲メニ相當ノ補償ヲ爲スノ義務ヲ負フヘシ

第九條 Hessen 政府ハ第三條中其軍隊ノ爲メニ指定セラルル地域内ニ在リ一切他國ノ兵ヲシテ通過セシ

メ又屯營セシムルヲ得ス

第十條 Hessen 全權ハ普國全權ヲ請フニ其常ニ同一軍團ニ在テ相提携スル Kriehessen 及 Nassau 兵ノ爲メニ亦休戰條約ヲ締結セシムコトヲ以テス然レモ普國全權ハ之ヲ拒メリ是レ其全ク權限外ニ屬スルヲ以テナリ

Main 軍總督侍中將官 Hessen 大公國侍中少佐 男爵 V. Lytke (鈐印)

V. Mantuffel (鈐印)

參謀長大佐

V. Krautz-Koschlar (鈐印)

普國第二預備軍團ト巴華路軍トノ間ニ結ヘル休戰條約

巴華路國歩兵第四師團長中將 V. Hartmann 氏ハ元帥 Carl 公ヨリ全權ヲ委託セラレテ界線ヲ職定シ及今回結了セル休戰ニ關シ軍事的小事項ヲ職定セシカガ爲メニ Nurnberg ノ普國軍團本營ニ到レリ

又普國第二預備軍團參謀長中佐 Veith 氏ハ軍團長大將 Mecklenburg-Schwerin 大公ヨリ全權ヲ委任セラレ兩全權相會合シテ左ノ條項ヲ議決ス

第一條 界線ハ大要在ノ如クナルヘシ

此河ノ巴華略國境ニ入ルコト其Main河ニ合スルノ間ハ同河線ニ沿リ此ヨリMain河線ニ沿フ
 Regnitz 河ニ至リ又Regnitz 河ノSchwarzbach 河ニ其後Schwarzbach 河ノAldorf 河ニ至リ是
 ヲ以テAldorf, Amberg, Hirschau, Wernberg, Waidhaus 各河ノ流域略國境ニ至ルノ地ヲ以テ
 界トス

此界線ノ兩側若干ノ地ニハ置兵メテ得ヌ故ニ中立地トス

此中立ノ地ハMain河ニ在リ其沿河ノ平地ヲ次ル所ノ高地脈ヲ以テ界トシMain河右岸Regnitz,
 Rednitz 兩河ノ右岸ニ在リ鐵道ヲ以テ界トシMain河右岸及Regnitz, Rednitz 左岸ニ在リ
 沿メテ走ル所ノ高地脈ヲ以テ界トス

Kirch, Schwabach ノ兩地ハ此例外ニメテ普兵之ヲ占領メテ得

Kronach 及Plassenburgハ巴華略兵營ノノリニテ守備メ而シテ此兩邑ハ共ニ中立地ト定ム是故
 ニ守備兵其近地ノ間ニ往復スルノ之ヲ妨害メテ得ヌ

Bamberg 及巴華略國少許ノ兵ヲ置テ之ヲ守ルヲ得然レモ此兵Regnitz河ノ右岸ニ於テ爲メ所
 ンメテ得ヌ殊ニ鐵道停車場ヲ占領メ又ハ其使用ヲ妨害メテ得ヌ界線ノ南端ニ在リSchwarzbach,
 Kronburg, Feucht, Aldorf, Traunfeld, Sohwend, Götzendorf, Fuchstein, Witzelhof, Urspring, Hirschau

PHALLEN, Auerbach, Weiden, Pilsener, Wernberg, Pleyselein 及 Waidhaus 各河ノ普兵營ヲ得ルノ極南端トス
 巴華略兵營ヲ得ルノ極北端ハSchwand, Ferrieden, Berg, Kastel, Amberg, Haselmtuhl, Kommat, Prient,
 Trenners 及 Isarn 各河

第二條 休戰ノ間勉テ軍兵ヲシテ休息安養セシムルハ共ニ希フ所ナリ殊ニ兩界線ノ間中立ノ地ヲ存
 スルヲ以テ普兵ニ在テモ亦巴華略軍ニ在テモ共ニ前哨ヲ配布スルヲ要セス唯舍營内軍事警察ノ爲メ
 ニ平時ニ在テモ亦置テ所ノ舍營衛兵ヲ置テ止ム

第三條 鐵道及郵便交通、電信ノ使用、河川ノ運漕ハ兩軍共ニ自由ナルヘシ然レモ若シ界線ヲ越テ軍
 器軍需ヲ輸送セント欲スル時ハ兩總督ノ協議ヲ經ルヲ要ス

總テ鐵道停車場ヲ軍事的ニ占領スルハ獨リ軍事的警察上其事須要ナル時ノミニ限ルハシ
 Bamberg 及 Amberg ノ停車場ハ兩軍何レヨリスルモ決シテ軍事的ニ占領スルヲ得ヌ

巴華略鐵道器具及Osbahn線路ノ器具ハ他日抗戰再ヒ開クノ前須ラク其本初所在ノ地ニ送還スヘシ
 第四條 各地所在ノ普國軍隊ハ本營ニ副フル所ノ本年七月二十四日 Hof 國製ノ規定書ニ隨ヒ給養
 セラルノ者トス

千八百六十六年八月四日 Wittenberg 本營

巴華中將

Bartholdy (鈐印)

第二預備軍團參謀長中佐

Ventz (鈐印)

五十

其五 **Prinz 聯邦要塞兵員表** (七月十一日)

部隊名稱	將	校	下士	工及木	醫官	銃工	兵卒	下士 及木工 兵卒 總計	馬	砲
埃國砲具支隊第四號	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
築造兵第一聯隊第十五中隊之支隊	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
巴華砲步兵聯隊 第一大隊	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
全 親衛聯隊	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
全砲兵第二聯隊之步砲兵第二中隊	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
全 全第四 全 第四全	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
全 要塞築造兵第五中隊	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
瓦敦堡步兵第四聯隊之二大隊	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
全 砲兵第三中隊	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
Kunhessen 親衛聯隊第一大隊	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
全 全 第二全	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

五十一

全	步兵第一聯隊第一大隊	將校	下士	工及木	醫官	銃工	兵卒	下士及木工 及兵卒	馬	砲
全	步兵第一聯隊第二大隊	三	三	三	二	六	六〇	六八〇	八	
全	全 第二聯隊第一大隊	三	三	三	二	六	六〇	六八〇	八	
全	全 第二聯隊第二大隊	三	三	三	二	六	六〇	六八〇	八	
全	全 第三聯隊第一大隊	三	三	三	二	六	六〇	六八〇	八	
全	全 第三聯隊第二大隊	三	三	三	二	六	六〇	六八〇	八	
全	全 第一大隊	三	三	三	二	六	六〇	六八〇	八	
全	全 第二大隊	三	三	三	二	六	六〇	六八〇	八	
全	獵兵大隊	三	三	三	二	六	六〇	六八〇	八	
全	散兵大隊	三	三	三	二	六	六〇	六八〇	八	
全	工兵中隊	三	三	三	二	六	六〇	六八〇	八	
全	騎砲兵中隊	三	三	三	二	六	六〇	六八〇	八	
全	施條砲中隊	三	三	三	二	六	六〇	六八〇	八	
全	十二斤砲中隊	三	三	三	二	六	六〇	六八〇	八	
全	六斤砲中隊	三	三	三	二	六	六〇	六八〇	八	
全	手工兵中隊	三	三	三	二	六	六〇	六八〇	八	

全	輜重部隊	一	一	一	一	一	一〇	一〇	一	
全	親衛騎兵	二	二	二	二	二	二〇	二〇	二	
全	Hessen 砲兵	七	七	七	七	七	七〇	七〇	七	
全	Sachsen-Meinungen 砲兵	六	六	六	六	六	六〇	六〇	六	
全	漢那華兵	一	一	一	一	一	一〇	一〇	一	
總計		三三	三三	三三	三三	三三	三三〇	三三〇	三三	三九

(一) 佛蘭堡ニ分遣セラヌ

附注 Sachsen-Weimar 歩兵聯隊及 Lippe-Schaumburg 砲兵ハ七月五日 Düm 及 Bastards ニ移サレ瓦

敦堡歩兵第四聯隊ノ二大隊 Düm ヨリ來テ之ニ代ル

Rhein 河南岸接近ノ村落ニハ Kurhessen 驃騎四中隊三百騎許ヲ散置シ若シ危殆ニ迫ル時ハ要塞内ニ入ラシム

Kurhessen 砲兵ハ準備整ハス須要ノ物品缺乏多シ殊ニ貨幣ノ不足甚クシテ兵隊ノ爲メニ次期一回ノ俸給ヲ支與スルニ足ラサルニ至レリ

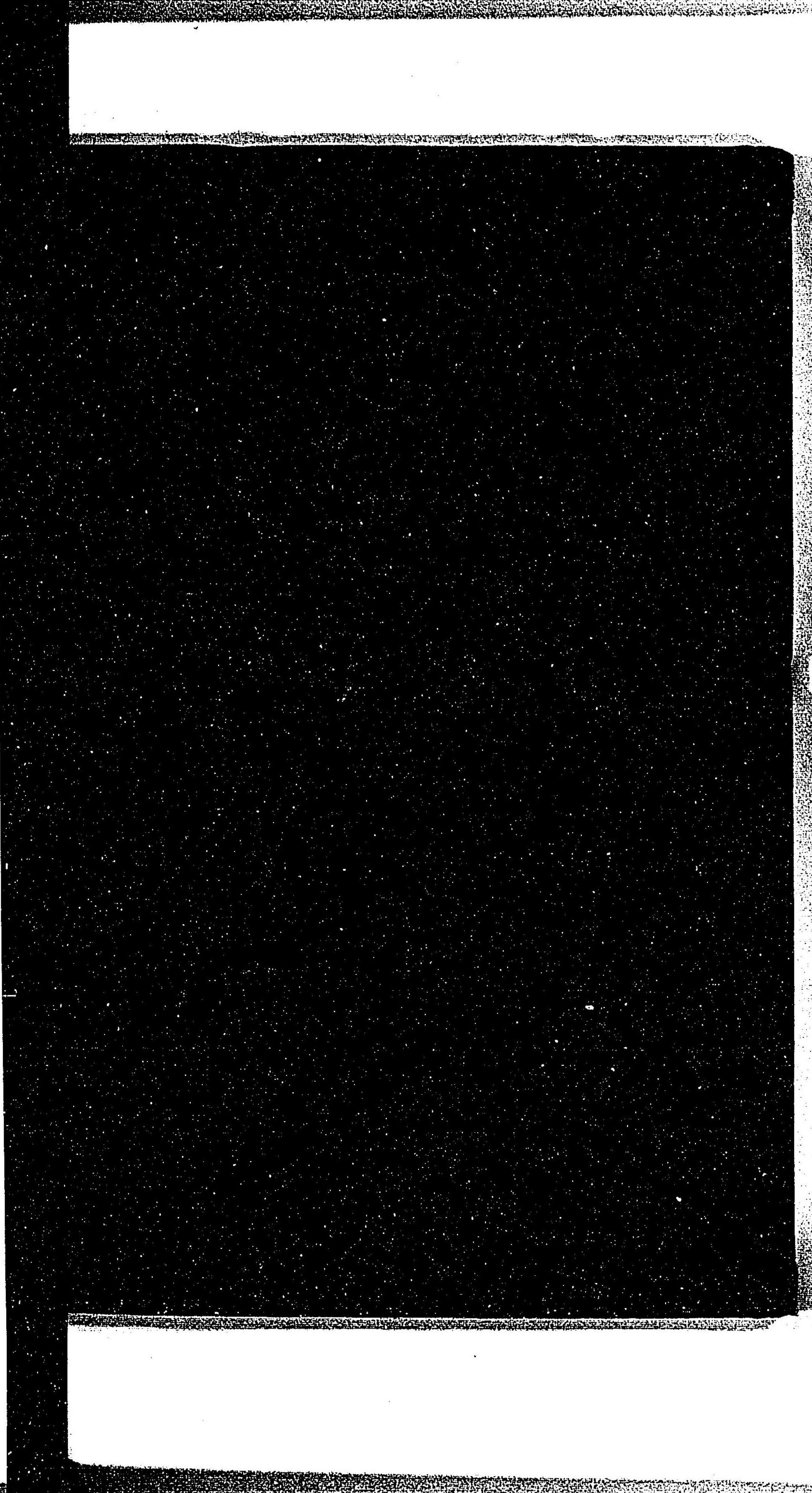
未項ニ掲ケル所ノ漢那華兵ハ其軍普國ニ降ルノ後佛蘭堡ニ集マリ其後 Mainz ニ移サレタル壯兵ナリ

10/9/35

普埃戰史卷之五正誤

頁	行	誤	正	頁	行	誤	正
五 十 九	十 四 一	臨權 編成 事ヲ見テ	臨機 編成 之ヲ見テ	六 十 九	五 一	着手 司令官 三隻ヲ	着手 司令官 三隻ヲ
五 十 三	四 一	Idro Bormio	Idro Bormio	二 百 三	三 一	六月末 艦隊	六月末 艦隊
五 十 二	三 一	Jnsbrueck Jndine	Jnsbrueck Jndine	二 百 八	八 一	同標 適	同標 適
四 十 八	七 一	ノ間配置 縮兵中隊 兵力ヲ竭シテ	ノ間配置 散兵中隊 兵力ヲ竭シテ	百 六 十	二 七	通過 レハ行	通過 レハ行
四 十 七	一 一	ノ刑	ノ刑	百 七 十	三 一	得サレ テ	得サレ テ
四 十 四	三 一	進マン	進マン	二 百 三	三 一	航路 毀壞シ盡サレ	航路 毀壞シ盡サレ
五 十 一	十 一	之ヲ見テ	之ヲ見テ	二 百 三	三 一	得サレ テ	得サレ テ

158



84
158

